

令和6年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
「多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究」 分担研究報告書

福岡県における肝炎医療コーディネーターの活動への工夫
- チーフ肝炎医療コーディネーターの設置と開始状況 -

研究分担者：井出達也
学校法人久留米大学 医学部 内科学講座 消化器内科部門 教授

研究要旨： 全国的に肝炎医療コーディネーター(肝Co)の養成が増えているが、大病院では職員の異動や辞職もあり、病院内の肝Coが現在どこにいるのかわからず、活動の妨げになっていることもある。また院内の肝Coの人数、部署を把握しないと連絡も取りづらく、グループを組んでの活動なども行いにくいと考えられる。一方、福岡県には、肝Coの永年認定者は868名で、そのうち福岡県肝疾患専門医療機関(72機関)に約60%の518名が在籍している。そこで肝疾患専門医療機関において、各医療機関につき、1名のチーフ肝Coを決定した。2024年11月29日に、WEB開催にて、チーフ肝Coのスタートアップ会議を行い、38医療機関に参加いただき、肝Coの人数や配置の把握、活動状況などの話し合いの機会を作るなどの活動をお願いし、自己紹介を行なった。今後は福岡県の福岡地区、北九州地区、筑後地区の3つに分けて、現地開催でチーフ肝Co会議を行うこととした。第一弾として、2025年3月19日に、筑後地区的チーフ肝Co会議を行い、13機関に参加いただき、1時間程講演を設け、その後意見交換会を行い、多くの施設間で交流いただいた。今後は福岡地区、北九州地区でも行なっていく予定である。このようにチーフ肝Coの設置と会議は、肝Coの活動支援に非常に有用と考えられた。

A. 研究目的

肝疾患専門医療機関にチーフ肝炎医療コーディネーター(チーフ肝Co)を設置することで、各医療機関内の肝Coを把握し、活動を支援することである。

B. 研究方法

- 福岡県肝疾患専門医療機関は、72医療機関ある。一方、福岡県の肝Coの永年認定者は868名で、そのうち福岡県肝疾患専門医療機関に約60%の518名が在籍している。そこで各医療機関につき、1名のチーフ肝Coの任命をお願いした。
- チーフ肝Coを決定後、スタートアップ会議を行うこととした。2024年11月

29日に、WEB開催にて行なった。

- 地区別チーフ肝Co会議の第一弾として、2025年3月19日に、筑後地区的チーフ肝Co会議を久留米市内のホテル会議室で行った。

(倫理面への配慮) 患者は会議には不在であり、とくに倫理面には問題ないものと考える。

C. 研究結果

- 72医療機関すべてにチーフ肝Coが設置された。
- 72医療機関中、38医療機関に参加いただき、肝Coの人数や配置の把握、活動状況などの話し合いの機会を作るなどの活動をお願いし、その後自己紹介を

行なった。また今後福岡県の福岡地区、北九州地区、筑後地区の3つに分けて、現地開催でチーフ肝Co会議を行うことを決定した。

〈WEB会議の様子〉



3. 筑後地区 19 医療機関中 13 機関計 17 名に現地参加いただいた。1時間程講演を設け、その後別室にて軽食を食べながら立食にて意見交換会を約1時間行い、多くの施設間で交流いただいた。今回の講演を聞いて、活動してみたいとか、当院はこういうことをやっているなどいろいろ意見が交わされ、鼓舞されたようである。意見交換会終了予定時間以降も多くの施設が残り、ホテル側の終了時間まで会話を交わしていた。今後は福岡地区、北九州地区でも行なっていく予定である。

〈講演の様子〉



D. 考察

今回初めて福岡県にてチーフ肝Coを設置し、会議を行なった。実際は活動できていないという方も多かったが、このような会議にて他の施設の状況を知ることで、モチベーションアップに繋がったり、人とのつながりもできると思われる。実際、著者もかなり多くの方と新たに知り合うことができた。とくに今回の筑後地区的チーフ肝Co会議はとても楽しくまた盛り上がって開催できたので、非常に有効な方法と考えられる。今後各医療機関で院内肝Coのワーキンググループなどの設置を期待したい。またチーフ肝Co会議を福岡県の他の地区で行っていく予定である。

E. 結論

チーフ肝Coの設置は、肝Coの活動支援に非常に有用と考えられた。

F. 政策提言および実務活動

〈政策提言〉

厚生労働科学研究費・肝炎等克服政策研究事業「多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究」(R5-7)、厚生労働科学研究費・肝炎等克服政策研究事業「肝炎ウイルス検査受検率の向上及び受診へ円滑につなげる方策の確立に資する研究班」(R5-7)の班員として研究活動を行い、肝炎医療コーディネーターの活動を支援し、受検、受診率の上昇に関する提案をおこなっ

た。

<研究活動に関連した実務活動>

上記の研究班活動に加えて、久留米大学消化器内科、久留米大学医療センター、久留米大学肝疾患相談支援センターのセンター長として、肝炎に関する総合的な施策の推進活動に携わっている。更に福岡県の肝炎対策委員長として、県肝炎ウイルス対策部署と連携し、肝炎撲滅対策に取り組んでいる。

G. 研究発表

1. 論文発表
とくになし。

2. 学会発表
とくになし。

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得
とくになし。
2. 実用新案登録
とくになし。
3. その他
とくになし。